

食品加工と包装技術

ジャパンフードサイエンス

Vol.56 No.5 2017

特集 食品の品質保持と衛生管理

- 食品を内外から守る保存技術
- 中食ベンダー、6次産業向け
微酸性電解水生成装置

特集 FOOMA JAPAN 2017

- FOOMA JAPAN 2017 国際食品工業展
- 新製品『卓上型近赤外水分計KB-230』

5

第2回「オーガニックライフスタイルEXPO」

会期とスペース、ともに拡大して7月28日～30日開催

大好評のうちに閉幕した第1回目の熱い思いを引き継いで、第2回『オーガニックライフスタイルEXPO』は、7月28日(金)から30日(日)まで東京・有楽町の東京国際フォーラムで開催する。28日には、ガラス棟会議室においてオーガニック・バイヤーズミーティングおよび展示ホールでは2時間限定の商談会をD7ホールではオーガニックシンポジウムを開催、29日、30日にはホールE全館を使い、展示販売商談会を催行する。

1 オーガニックライフスタイルEXPO

第2回『オーガニックライフスタイルEXPO』は、一般社団法人オーガニックフォーラムジャパンが主催し、一般社団法人フードトラストプロジェクト、ロハスワールド、GON（グローバルオーガニックネットワーク）が共催。基本コンセプトならびにメインテーマをIFOAM（国際有機農業運動連盟）が提唱する“オーガニック3.0”^{*1}の推進とし、サブテーマを国連が提唱する“持続可能な開発目標SDGs”^{*2}の実現をめざして展開する。

『オーガニックライフスタイルEXPO』はオーガニックの裾野を広げ、関心と呼び起こし、生活に根付かせ購入につなげるために、ビジネスに一般消費者を巻き込むBtoBtoCの展示会。この双方にオーガニックライフスタイルの新しい切り口を提起するために、主催者テーマゾーンが企画されている。今年は賛同企業の

支援も得ながら、「新規就農者応援ゾーン」「アニマルウェルフェアゾーン」「Kitchengarden／家庭菜園ゾーン」にフォーカス。

28日のオーガニック・バイヤーズミーティング&商談会では、ビジネスを軸にオリバラ食材調達情報も含め、生鮮、コスメ、フェアトレード関連バイヤー向け専門セミナーを限定開催。夕刻、展示会場の準備が整ったところで、今年の出展者の自慢の品々について事前にプレスやバイヤーへお披露目することを計画している。主催者ならびに各出展者がバイヤーを招待しあい、充実した商談の2時間を設ける。

2 展示会概要

- 名称：第2回Organic Forum Japan～オーガニックライフスタイルEXPO～Summer
- テーマ：オーガニック3.0を推進する～持続可能な開発目標SDGsの実現に向けて
- 会期：2017年7月28日(金)、29日(土)、30日(日)
- 会場：東京国際フォーラム 展示ホールE・D7ホール・ガラス棟会議室
- 入場料：1,000円(税込)／公式サイト事前登録無料
- ▽「オーガニック・バイヤーズミーティング」
28日／ガラス棟(入場料3,000円(税込)／業界関係者招待状持参無料)
- ▽「オーガニックフォーラムシンポジウム(仮称)」
28日／D7ホール(入場料1,000円(税込)／業界関係者・一般招待状持参・事前登録無料)
- ▽「EXPO 展示販売商談会」
29日・30日10:00～17:00／展示ホールE
(入場料1,000円(税込)／業界関係者・一般招待状持参・事前登録無料)



Organic Forum Japan
Organic Lifestyle EXPO

来場目標：業界関係者，一般，学生30,000人
展示規模：展示ホールE（全スペース）一般出展ブース（w3,000×d2,000）約240小間

主催：（一社）オーガニックフォーラムジャパン

共催：FTP，GON，LOHAS WORLD

同時開催：第2回キッズアワード「はくとわたしの食べ物」の絵コンテスト，チェアヨガ，基調講演シンポジウム・各種セミナーワークショップ，各種専門&認証講座他シンポジウム・各種セミナーワークショップ他

公式URL：<https://ofj.or.jp>

3 注目のテーマゾーン

3-1 新規就農者応援ゾーン

昨年，屋外で催行されたファーマーズマーケット（マルシェ）は，今年は雨や炎天下を考慮し，ホール内で展開。ここに設置されるのが，有機農業の次代を担う新規就農者のテーマゾーン。就農10年未満，あるいは中山間地で2町歩未満，さらには第2の人生で有機農業に取り組んでいる就農者が出展する。

3-2 アニマルウェルフェアゾーン

「アニマルウェルフェア」とは，動物の生理に合った，できるだけストレスを与えない健康的な飼い方をする畜産方法（「平飼いの卵」など）。2020年の東京オリンピックを控え，日本でもこの畜産法への関心が高まり，昨年5月にはAWFC（アニマル・ウェルフェア・フード・コミュニティ）ジャパンが発足。さらに今年4月には，北海道のアニマルウェルフェア畜産を志す生産者を中心メンバーに「北海道オーガニックビーフ振興協議会（通称HOBAホバ）」が設立。この業界の動きを一般消費者にも広く知ってもらうために本ゾーンを設置。あわせて第1回アニマルウェルフェアサミットを30日セミナールームで開催

3-3 Kitchengarden／家庭菜園ゾーン

昨年のテーマ「Seed Exchange／種の交換会」の好評を受けて派生拡大したもの。在来種・固定種に対する関心のある人が想像以上に多かったことから，「種の交換会」の面白さを維持しながら，誰にでも身近に

そして気軽に有機農業に取り組んでもらうために本ゾーンを設置。「気軽に楽しく取り組める身近な農」，ベランダやキッチン，お庭やレンタル農園など，都市型のライフスタイルにフィットする様々な“農のカタチ”を提案。

4 参考

※1：オーガニック3.0／IFOAM（国際有機農業運動連盟）

1970年代，有機農業の先駆者たちが動き始めた「オーガニック1.0」から1990年以降，グローバルな規格・基準，認証制度の普及による有機市場の規模拡大を目指した「オーガニック2.0」を経て，「オーガニック3.0」は次の時代を見据えて，「2.0」で取りこぼしてきたものは何かを掘り上げる。オーガニック認証を取得した一定規模以上の農家だけでなく，中山間地の小規模農家，消費者に直接つながる提携やローカルを足場にする家族経営農家，さらには有機農業の枠を超えて貧困や飢餓，天然資源の枯渇，地球温暖化や生物多様性の保全といった環境・持続可能性までを，オーガニックに携わる者共通の目標とするもの。

これはサブテーマのSDGsにつながる。

※2：SDGs（Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標）／国連

2030年に向け，持続可能な社会を実現するための開発目標で，世界中で取り組みが始まっている。「誰も置き去りにしない」と宣言された「2030 アジェンダ」には，地球規模の優先課題として下記の17目標が挙げられている。

①貧困をなくそう，②飢餓をゼロに，③すべての人に健康と福祉を，④質の高い教育をみんなに，⑤ジェンダー平等の実現，⑥安全な水とトイレを世界中に，⑦エネルギーをみんなに，そしてクリーンに，⑧働きがいも経済成長も，⑨産業と技術革新の基盤を作ろう，⑩人や国の不平等をなくそう，⑪住み続けられる街づくり，⑫作る責任，使う責任，⑬気候変動に具体的な対策を，⑭海の豊かさを守ろう，⑮陸の豊かさをもまろう，⑯平和と公正をすべての人に，⑰パートナーシップで目標を達成しよう。